第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方・考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合，地理探究』では，「地理総合」で学習したことと，それを基に「地理探究」で学習したことを問う。なお，第１問と第２問は「地理総合」との共通問題として設定した。

問題の作成に当たっては，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第３問　学習指導要領「地理探究」の「Ａ　現代世界の系統地理的考察」における「(1) 自然環境」と「Ｃ　現代世界におけるこれからの日本の国土像」における「(1) 持続可能な国土像の探究」に関する大問である。世界の自然環境や物質循環に関する題材から地域の自然環境について順に取り上げた。問１では，海底地形とその分布から，プレートテクトニクスが形成する地形を考察する力を問うた。問２では，大気中の二酸化炭素濃度の変化から，大気大循環・大陸分布・植生分布・経済活動の分布を推察する思考力を問うた。問３では，地形分布や過去の火山活動から日本の主要な土壌について考察する力を問うた。問４では，北アメリカの湿地・湖沼分布と気候分布から特徴的な地形について考察する力を問うた。問５では，降水量，人口分布，大陸面積から水資源について考察する力を問うた。問６では，火山による災害が，時期や火山の大きさによって大きく異なることを，読図とものの動き方の基本的な理解から考察する力を問うた。大問全体の平均点はやや低かった。小問単位での正答率は，問３と問４で高く，問２と問５で低かった。

第４問　学習指導要領「地理探究」の「Ａ　現代世界の系統地理的考察」における「(2) 資源・産業」と「(3) 交通・通信，観光」に関する大問である。衣料品の生産，流通，再利用・再資源化を題材に取り上げ，探究型学習プロセスに沿って，産業構造や経済的事象を多面的・多角的に考察する力を問うた。問１では，天然繊維生産に関する問いを配置し，産地分布から農業について推察する力を，問２では，日本における繊維工業に関する問いを配置し，産業構造の変化について考察する力を問うた。問３では，日本の衣料品の輸入相手国に関する問いを配置し，国際分業の進展について推察する力を，問４では，衣料品の流通についての問いを配置し，小売業の立地について考える力を，そして問５では，中古衣料品の再利用，再資源化に関する問いから，衣料品をめぐる現代的特徴について考察する小問を配置した。大問全体の平均点は他の大問に比べると若干低く，小問によるばらつきがあったが，おおむね標準的であったと考える。

第５問　学習指導要領「地理探究」の「Ａ　現代世界の系統地理的考察」における「(4) 人口，都市・村落」と「Ｃ　現代世界におけるこれからの日本の国土像」における「(1) 持続可能な国土像の探究」に関する大問である。人口，都市について，自然環境，歴史的背景，社会・経

済の変化などを背景として生じる人口現象の地域差や，大都市圏と地方圏との関係の中で見られる都市・居住問題を取り上げた。問１では，世界の人口を大観する小問を配置し，人口の増減や分布を俯瞰的に捉えられるかを問うた。問２では，人口移動を，問３では，人口転換に関わる小問をそれぞれ配置した。問４では，都市圏の中心都市と周辺地域の関係性についての小問を，問５では，日本の大都市圏と地方圏の産業や生活環境の地域差についての理解度を問う小問を配置した。問６では，これからの日本の国土像を見据えた都市の課題と持続的発展に向けた取組に関する小問を配置した。各小問の正答率を見ると，問３と問６が高かった一方で，問４が低かった。大問全体としての得点率は標準的であった。

第６問　学習指導要領「地理探究」の「Ｂ　現代世界の地誌的考察」における「(2) 現代世界の諸地域」に関する大問である。三つの地域の異なる国際河川流域における自然環境や社会的事象，課題に関する流域間及び流域内比較を題材とした。問１では，それぞれの流域の気候区分の分布についてグラフを基に判別し，流域間及び流域内での気候の多様性を考察する思考力を問うた。問２では，異なる二つの流域都市における景観写真と，長期的な発展過程の知識を踏まえて，地域的特徴を推察する思考力を問うた。問３では，ドナウ川流域を取り上げ，貨物流動の特徴から，地域的傾向や輸送手段別の特性を推察する思考力を問うた。問４では，各流域諸国における水資源の国外依存度に関する主題図の読み取りと，一般的な地理的知識から各流域における特徴的な地域的課題を考察する思考力を問うた。問５では，それぞれの流域国の経済水準やその変化の背景を踏まえた地域的特徴について推察する思考力を問うた。大問全体の得点率はやや高かった。各小問の正答率を見ると，問３が低かった一方で，問４と問５がやや高かった。

３　自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第３問　大問全体の得点率はやや低かった。小問別に見ると，問２と問５の正答率が低かった。また，地図や資料から情報を読み取り，世界の自然環境と自然災害に関して，地理的事象に関する知識を基に，多面的・多角的に考察する問題で構成されていると評価された。問１は，海底地形からプレートテクトニクスを考える問いで良問と評価された。問２は，大気中の二酸化炭素濃度の地域差を考察する問いで，良問との評価を得た一方で，読み取りやすい問題の構成や，より分かりやすいデータの選定を求められた。問３は地形と土地利用から土壌分布を考察する問い，問４は地形と自然についての説明から北米大陸の自然環境を読み取る問い，問５は気候と人口分布から水資源を考察する良問との評価を得た。問６は，火山災害について初見の資料から考察する問題で，やや文章が長く，解答に時間を要するという指摘もあった。今後も出題形式や難易度のバランスに配慮しつつ，自然環境や自然災害を的確に捉えた出題を心掛けたい。

第４問　身近な衣料品類のサプライチェーンの在り方を問い直し，循環型社会へ移行する中で，意義ある大問であり，学習指導要領の内容と合致していると評価された。大問全体としては，基礎知識をベースに思考力と判断力を求める標準的な問題であった。問１は，天然繊維の原料生産について原料と生産国との組合せを考える問題，問２は，綿紡績業と化学繊維製造業の事業所数の推移から化学繊維製造業の立地変化を考察する良問，問３は，アジア諸国における工業の発展段階について考察する問題，問４は，衣料品小売業と自動車販売業の立地比較をする問題，問５は，中古衣料品の流通と衣料品類の再資源化という持続可能性に関わる問題と評価

された。他方，問４については，凡例の分類が分かりにくく，分布図にするなどの工夫があると良かったとの指摘もあった。今後は，これらの点を考慮しつつ作問に努めたい。

第５問　外部団体からは，様々な統計資料や図の読み取り，地理的事象に関する知識を基に，場所や空間的相互依存作用などに着目して，多面的・多角的に考察する問題で構成されているとの評価を得た。小問別では，問１は，各地域の人口増加や労働生産性の差異から思考する点が評価された。問２は，国際移動に関する社会的背景や人口規模についての知識を基に解答可能であるが，判別がやや難しいとも指摘された。問３は，人口転換と各国の経済水準に関する知識を基に判別可能と評価された。問４は，二つの都市圏の共通性と差異を考察する問題であるが，比較的難易度が高いとの評価を得た。「中心都市」と「周辺地域」が言葉だけでは想像しづらく，問い方や資料の提示方法に改善を要するとの指摘があった。問５は，産業や生活環境の地域差に関する知識を基に思考する良問である一方，指標の判別がやや難しいという指摘があった。問６は，都市の変容やコンパクトシティ政策について考察する良問であると評価された。以上の評価を踏まえ，今後も，基礎的知識や図表を活用した思考力を問うことができる問題を作成していきたい。

第６問　全体として，基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の問題で構成されていると評価された。また，各地域の自然環境の特徴や建築物の特徴，地域ごとの経済発展の度合いなどに関する知識，資料の読解は必要であるものの，主要な国際河川流域を対象とし，複雑な資料はなく，基本的な知識を活用する問いが多いと評価された。問１は，気候帯の分布がおおむね緯度に沿うものであることを意識した作問であり，地理的な見方・考え方を問う良問と評価された。問２は，河川流域の都市の宗教や経済，歴史について，写真も読み取りやすく，文章も簡潔だったが，やや知識を必要とする問題と評価された。問３は，貿易量・工業化の度合いやつながりなど複数の要素から解答を導き出す必要があり，思考力と判断力を問うことができる良問と評価された一方で，問題独自の設定が理解しづらく，解答に時間を要してしまうという指摘を受けた。問４は，知識よりも思考力と判断力が問われる問いであり，日頃から地図を用いた取組を行っているかも問うことができる良問と評価された。問５は，各河川流域にある国・地域と経済状況や経済政策等を把握する必要があり，知識を基に思考力と判断力が求められる問いであり良問と評価された。今後は，これらの指摘を真摯に受け止め，より適切な問題作成に努めていきたい。

４　今後の問題作成に当たっての留意点

(1) 問題作成方針に沿い，学習指導要領において育成を目指す資質・能力を測るための良問で構成されているとされた。また，高等学校教育で身に付けた知識や技能・思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料，主題図といった様々な資料の読解力が試される試験になっていると評価を得た。また，大問構成については，昨年度の大問構成を踏まえつつ各大問での出題分野が固定的とならないように工夫されていたことや，「持続可能な国土像」への言及またはそれにつながる設問があったことについても評価された。ただし，地誌の地域区分については，その区分の意義が伝わるようにしたいとの要望もあった。これらの点を踏まえ，地理的な見方や考え方を働かせて解答に到達できる問題の作成に取り組んでいきたい。

(2) 難易度については平均点が 61.87 点となり，適正な難易度であった。外部団体からも，全体として適切な難易度であると評価されたが，資料の提示について正答に至るまでの筋道が見えづらい小問が幾つかあったことも指摘された。「地理総合」との共通問題の難易度に留意しつつ，『地理総合，地理探究』の問題として適切な難易度を模索していきたい。

(3) 地図とグラフが多く提示されるとともに，昨年度よりも全体の資料量や説明文の量が精選されたと評価された。ただし，中には図表を見ずとも正答に至るものや，図表を生かしきれていない問題も見られたと指摘があった。さらに，大問によっては統計数値の読み取りに関する小問への偏りが見られるという指摘もあった。こうした課題については，引き続き検討を重ねていく必要がある。

(4) 出題のバランスについては，教科書を基礎とし，特定の事項や分野への偏りは生じていないとされた。ただし，学習プロセスを重視する問題において，「探究」という設定はされているものの，調べたという程度に留まっているという意見が寄せられた。また，地域を様々なスケールから捉える問題への要望もあった。系統地理的内容と地誌的内容のバランスをとりつつ，グローバル・ローカルな視点から現代社会への関心を持てるようなテーマをもつ問題作成などについて，引き続き十分検討していたい。

(5) 全体として，高等学校での学習内容を基にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所に見られ，高等学校における授業改善の指針となる試験であると評価された。今後も高等学校で扱う内容の知識・技能を踏まえた地理的な思考力・判断力を多面的かつ多角的に問うとともに，地球上の様々な自然・人文事象に対して，マルチスケールに基づく地理的見方・考え方を養い，事象の意味や将来像を自然と想起できるような，教育現場に携わる人々の手本となる問題作成に取り組んでいきたい。